

天文12（1543）年の鉄砲（火縄銃）伝来以来、多くの大名が火縄銃の破壊力に魅了され、泰平の世であった江戸時代でも万が一に備えて大量の火縄銃を所持しました。ところで、火縄銃を発砲するには銃だけでは足りません。火縄銃本体はもちろんのこと、弾丸・火薬・火縄といった関連道具が必要です。また火薬や弾丸を安全に所持するために専用の容器を用いるなど、火縄銃には様々な道具が附属しています。本展覧会では、名古屋城振興協会が所蔵する火縄銃全点の他、附属する関連道具まで一堂に展示し、火縄銃の機能や扱い方を紹介します。

	名称	員数	製作年代
第一章 火縄銃をよく見よう			
1	火縄銃（十五匁筒） 銘 橋本由右衛門能當作	1挺	江戸時代
2	火縄銃（一匁五分筒） 銘 二重巻張 江州 國友九兵衛縁寿 金象嵌 丸に木瓜紋	1挺	江戸時代
3	火縄銃（五分筒） 銘 二重巻張 道元安太郎家富作	1挺	江戸時代
4	火縄銃（六匁筒） 銘 芝辻勝右衛門（花押）十五 銃床内墨書 長四尺七分六厘 銃床側面「〇に一」焼印「シ」刻銘	1挺	江戸時代
5	火縄銃（三匁五分筒） 銘 播州姫路之住高倉基六作 真鍮象嵌銘 稲富一夢理齋（花押）	1挺	江戸時代
6	黒漆塗黒糸威五枚胴具足 彦根藩家臣・木俣家伝来	1具	江戸時代 ※
7	火縄銃（三匁五分筒） 無銘	1挺	江戸時代
8	火縄銃（六匁筒） 銘 芝辻勝右衛門（花押）十三 銃床内墨書 長四尺八分八厘 銃床側面「〇に一」焼印「十六」刻銘	1挺	江戸時代
9	火縄銃（六匁筒） 無銘 銃床内墨書 長四尺五寸六分一厘 銃床側面「〇に一」焼印「ソ」刻銘	1挺	江戸時代
10	火縄銃（十二匁筒） 無銘	1挺	江戸時代
11	火縄銃（九十匁筒） 銘 芝辻藤左衛門清永 天保八年酉七月力薬七拾匁目 銀象嵌銘 荒浪	1挺	江戸時代
第二章 火縄銃の構造を知ろう			
12	火縄銃（三匁五分筒） 銘 鍛惣巻張 谷口金蔵内改阿州臣笠井真信（花押）	1挺	江戸時代
13	太刀筭槍鉄砲名処之図	1巻	江戸時代
第三章 容れ物			
14	口薬入（八段鞠挟に片喰紋）	1合	江戸時代
15	口薬入（木瓜紋）	1合	江戸時代
16	口薬入（上がり藤に一文字紋）	1合	江戸時代
17	口薬入（朱塗）	1合	江戸時代
18	口薬入（黒漆塗瓢蔓蒔絵）	1合	江戸時代
19	口薬入（なす形）	1合	江戸時代
20	口薬入（丸に違い鷹羽根紋）	1合	江戸時代
21	胴薬入（木製）	1合	江戸時代
22	胴薬入（亀甲羅使用）・大	1合	江戸時代
23	胴薬入（丸に抱き茗荷紋）	1合	江戸時代
24	胴薬入（三つ扇に片喰紋）	1合	江戸時代
25	胴薬入（尻膨形）	1合	江戸時代
26	胴薬入（セセリ付）	1合	江戸時代
27	胴薬入（亀甲羅使用）・小	1合	江戸時代
28	胴薬入（鮫革）	1合	江戸時代
追加1	胴薬入（弾丸袋付）	1合	江戸時代

名称	員数	製作年代
第四章 弾丸を造る		
29 鋳鍋	2口	江戸時代
30 鋳造杓	1本	江戸時代
31 鉛	2点	江戸時代
32 付け木	1点	江戸時代
33 弾丸入箱	1合	江戸時代
34 火打金各種	2点	江戸時代
35 弾丸各種	一式	江戸時代
36 火縄	1本	江戸時代
37 弾鋳型	3本	江戸時代

第五章 早く発砲する工夫

38 火打金・火付具入	1点	江戸時代
39 火打金入	1点	江戸時代
40 自動火打ち石機	1点	江戸時代
41 弾丸入	2口	江戸時代
42 褌早合	一式	江戸時代
43 胴乱（黒漆塗丸に二引両紋）・早合	1合	江戸時代
44 胴乱（黒漆塗葵紋）	1合	江戸時代
45 胴乱（黒漆塗蕙紋）・早合	1合	江戸時代
46 火縄銃型根付	1点	江戸時代

※は名古屋城総合事務所蔵、その他の作品は名古屋城振興協会蔵です。出品番号は展示順と異なる場合があります。

火縄銃 各名称図

